

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400061		
法人名	(株式会社) 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 東児		
所在地	岡山県玉野市西田井地2256-1		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 7 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和5年5月から「5類感染症」になり少しずつ緩和されてきたので、時候の良い時には散歩をし近所の方と話しをしたり交流している。施設内での行事に力をいれている。節分・ひな祭り会・七夕会・クリスマス会・門松作り・おせち作り等趣向を凝らして催している。職員においては介護スキルを向上させることで入居者に貢献でき、それより自分自身も喜びを見出してもらえよう個々に合った研修を受講することで、人材育成を図っている。現在職員18名、介護福祉士9名、介護支援専門員4名、また職員が入居者一人一人と向き合うことで、入居者から出た日常の”つぶやき”を集めた「つぶやき集」の作成にも力を入れている。健康な生活を送っていただくために食後の口腔ケア施行はもちろんの事、毎週木曜日には訪問歯科診療にも来ていただき口腔内の清潔を保っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390400061-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

両ユニットの管理者や副管理者は、理念の「自分らしくを大切に！」を念頭に、利用者の人柄や暮らしを知るために、一人ひとりと会話をする時間を大切にしている。職員と連携を図りながら、人間関係と信頼関係づくりに力を注いでいて、利用者との何気ない会話から趣味や興味を把握している。各ユニットの壁面には、手先が器用な方と一緒に作成した、手作りの貼り絵や毛糸で作った動物の顔の作品、季節を感じられるようにクリスマスにちなんだ作品も数多く掲示されている。「パズルの時間」になると、ペットボトルのキャップで作られた手作りパズルをして楽しんだり、「食器洗いの時間」になると職員と一緒に片付けをしたりして、過ごしている利用者の姿があった。各ユニットの行き来が可能な玄関先には、行事の写真が掲示され、出し物で演じた役をやり切っている姿、職員と笑顔で写っている利用者の姿が印象的だった。外出も少しずつではあるが、出来るようになって総社の備中国分寺で五重塔を眺めたり、外食を楽しむこともできた。職員は利用者一人ひとりの思いに寄り添っているからこそ、利用者には安堵の表情が浮かび、施設全体に笑い声が響き渡っていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム全体の目標を掲げて定期的に評価している。自分自身の振り返りができ少しずつではあるが次へ繋げている。	理念は、玄関と事務所に掲示している。基本理念・基本指針、企業理念、介護理念、介護業務理念、GHスローガン、4S(整理・整頓・清潔・清掃)も掲げている。その他にも、1年間のGH内の目標も掲げている。法人の内部研修へ行った際には、理念に触れる機会を設けている。	素晴らしい理念なので、浸透できるように工夫してみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、現在地域交流はほとんどなされていない。	町内会に加入していて、回覧板にて情報を得ている。年2回、溝掃除に参加している。近隣の散歩をしている時に、出会った方と挨拶を交わしている。また、地元の馴染みの方と会った際には、昔話に花が咲いた。コロナ以前は、地域の秋祭りや職場体験の受け入れもあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍だったため現在は受け入れてないが、小学校の総合学習の参加と、中学校の職場体験学習の受け入れを積極的に行っていた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍だったため、事業所内での運営推進会議はされていないが、催し物、避難訓練の活動の情報は記録し、家族へは日常の様子を写真を添えて送っている。	現在は書面開催となっていて、地域包括支援センター、民生委員、愛育委員、家族に書類を郵送している。町内会長へは直接持参している。行事や避難訓練を行った際の報告を行った。コロナも落ち着きつつあるので、今後は対面式で実施する予定である。	様々な角度から意見を聴取できるように工夫してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍だったため、介護相談員訪問、外部への会議出席は見合わせているが、成年後見人が必要な方に市長申し立てをして相談にのっていただいている。	窓口の基本は両ユニットの管理者で、書類を直接持参することで、face to face の関係が継続されている。直近では、衛生機材の配布の連絡が入り、管理者が直接取りに行った。また、研修案内などの情報はメールで届く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年に2回身体拘束の研修を行い、3カ月に1回定期的に身体拘束委員会を開催して当施設の状況把握をしている。毎月開催しているカンファレンスで身体拘束の定義を踏まえ、入居者一人一人につき、拘束していないか話し合いの中で確認している。	委員会では、身体拘束があるかどうかの確認を行い、家族には身体拘束に関する説明書・経過観察記録にて、同意を得ている。言葉掛けのタイミングや対応についても確認し合っている。外部研修はZOOMで実施して、資料を見ながら学びを深めた。両ユニットの行き来は自由となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待になる事はどんなことかを学習している。日頃から職員間で注意をし合えるような関係づくりを目指している。毎月のカンファレンスで虐待を行っていないか虐待の定義を踏まえ、一人一人について確認しあっている。また資料を準備し読み合わせを行っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見人制度についての勉強会等を通して詳しく学ぶ必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約をし、十分な説明を行い不明な所は説明している。また、契約時に要望書をお渡しし、何かあれば本社へ郵送していただくようお願いしている。要望があれば職員間で周知徹底し不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため直接、家族との面談がないが、電話、メール等で意見、要望等を聞いて対処している。面会時やケアプラン作成時にご家族様の意見等を伺い普段の生活や行事に反映している。	面会はコロナ前の状態に戻っている。直接意見を聞いたり、入居時に渡している要望書を提出して頂いたりしている。月1回、ご家族通信を発行していて、写真を添付しているので施設の様子がわかるとの声を頂き、担当者からのコメントも好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が毎月のカンファレンス等で職員に運営についての意見をしっかりと聞き、本社に改善を求め改善に繋げている。	月1回の会議にて職員の意見を聴取している。年1回、職務アセスメントを実施して、職員の評価をしている。両ユニット管理者や副管理者は、何でも言いやすい雰囲気作りに努めていて、10年戦士が10名程いるので安心でき体制が整っている。日々の業務中にも意見が飛び交い、明るい職場環境であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員に待遇についての意見や要望をしっかりと聞き、本社に改善を求め改善に繋げている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	本社研修、キャリア形成訪問指導事業の研修、毎月の勉強会等施設での研修を実施している。又、個々の職員の状態に合わせて外部の研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍だったため、直接交流する機会はなかったが、入居者様の情報を交換し共有するように努めている。		
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から聞いたエピソードを基に生活史を理解し、それを踏まえた上で統一した利用者支援を心掛けている。尊厳を持った関わりを目指し、個々の利用者の思いを傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面接を通しての家族の精神的負担、孤立を軽減できるよう努めている。家族と連携しながら入居者の生活環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して得た情報を基にアセスメント後1ヶ月を目途にした暫定プランの作成入居後再アセスメントをしその時の状況に応じたプランの立案をしている。必要に応じた他のサービス利用も視野に入れる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のこれまでの生活史を把握し、家事、料理等出来ることは職員と共に、役割を持ち生活できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者が入居者の様子を記した家族通信と日常の写真を送付している。家族からは「会えないので、元気そうな写真を見て安心しました。」との連絡を頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医の受診等、家族の協力を得ている。家族以外の面会者に対して気軽に面会できる雰囲気作りを心掛け、昔ながらの知人や友人が面会に来られ楽しく過ごせるよう支援をしている。	面会では、家族や親戚はもちろん、姑さんも来て、仲良く話をしている姿が印象的だった。地元の馴染みの方と会うこともあり、昔話に花を咲かせている。外食へ出掛けた際の帰りには、昔馴染みのお店や自宅付近を通り、昔を思い出していた。リビングの席が馴染みとなり、我が家のようにゆったりと過ごしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、食事席等、入居者や職員がスムーズなコミュニケーションを取れる工夫している。居室で過ごすことの多い方は、孤立しないようレクリエーションを行う際は声かけしたり、おやつ時間は一緒に過ごせるよう心掛けている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を尋ねたり、必要に応じて家族との支援づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループワーク時や日々の会話の中で現在の生活はどうか、どうしたいか尋ねたり皆さんの思いを聞く。状態が変化すればその都度職員全体で考えている。	入居者に寄り添いながら、聞き取りやすいように、優しく言葉掛けをしている。体調に合わせて、排便コントロールにも気を配っている。理念にもある「自分らしく」を大切にしている、利用者の一人ひとりに合わせた生活ができるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、生活史、職歴、趣味等入居に至るまでの経緯を十分に把握し家族とも連絡を密にし、家族で生活していた頃の様子等の情報も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日課表に添った生活の中で残存能力を活かし生き生きとした暮らしが出来ているか把握し変化や問題点があればその都度職員全体で考え現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月個別カンファレンスを行い、課題があれば話し合い改善を目指している。また、家族の意向は、面会時や電話メール等でお聞きして把握できるよう努めている。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎に更新している。支援経過記録には、短期目標を掲げているので、職員間で情報共有をして、目標に沿った支援に繋げている。また、日中や夜間の様子を細かく記載している。ケアマネジャーは、施設で毎日楽しく過ごして頂きたいと考えていて、寄り添ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の日常の様子、職員のケアの実践状況等、細やかな個別記録を通して情報の共有を図り、介護に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、家族と電話で何度も話し合い柔軟な対応している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から利用しているデイケアへ続けて行けるようにしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、入居前のかかりつけ医での医療が受けられるように医療機関と関係を密に結んでいる。必要に応じ家族とともに同行し、普段の詳しい状態を伝えるようにしている。近況の情報提供書を送付している。	かかりつけ医は入居時に選べるが、元のかかりつけ医を継続している方もいる。内科は週1回、精神科は月1回の往診がある。体が痛いと言う利用者に対して、ドクターは「治っているので大丈夫」と優しく言葉を掛けている。他科へは、基本家族が連れて行くが、状況により職員が対応する場合もある。週1回、訪問歯科も来られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を利用している。日常的なことは連絡ノートに記入して一人一人の状態把握をしている。また、入居者の状態変化があった際には電話で相談して早期に受診して頂く等、適切な医療に繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師と話をする機会を持ち、施設内での対応可能な段階で早く退院できるようアプローチしている。入院時には本人に関する情報提供している。家族と回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、施設が対応し得る最大の支援方法を踏まえて方針を職員で話し合っている。外部や内部での研修、講演会等で意識向上を図っている。家族の協力も得ながら医師、職員が連携をとり安心して納得した最期を迎えられるように随時意思確認を行いながら取り組んでいきたいと思っている。	看取りは実施しているが、ここ数年はなかった。コロナ禍での看取りでは、対面や人数制限は設けなかった。入居時に「看取りに関する同意書」にて説明して、サインを頂いている。重度化した際には、再度聞き取りの場を設けている。デスクンファレンスでは、職員から看取りに関するアンケートを実施して、次に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDも設置し、入居者が急変した場合の緊急対応についてマニュアルを作成し、職員が落ち着いて対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防本部の協力を得て、火災を想定した避難訓練、消火器を使つての消火訓練も実施している。津波対策として食料品の備蓄も準備。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施し、大雨の避難対策もできた。連絡網とハザードマップは事務所に掲示している。備蓄は、水や食料品を3日分、事務所に保管している。賞味期限間近の物は利用者と一緒に食して、フードロスをなくしている。BCP対策も現在進行中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	色々な場面でプライバシーを尊重したケアを心掛けている。入居者を人生の先輩として意識しながら声かけを行っている。トイレ前にカーテンをかける等プライバシーも保護している。居室に入る際は声かけをし、本人に許可を取っている。	呼称は苗字に「さん」付けだが、家族の許可を得た上で、別の呼び方で呼ぶ場合もある。利用者は「人生の先輩」なので、尊敬の気持ちを持って日々接している。お風呂やトイレなど、肌が露出する場面では、カーテンを敷いてプライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝コーヒータイムで入居者方の間に職員が入り、グループワークを行っている。誕生日が近い方には誕生会のバースデーケーキを選んでもらう等（主役体験）入居者の意見、希望を聞きいれている。また、更衣の際等は好みの物を選んでもらえるような声かけをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、毎日の生活を自分のペースで行えるように相談しながら行っている。調理、散歩等望まれることで、職員と共に楽しむように個別対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は好みの物を共に用意している。訪問理容を利用している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、後片付け等を出来る人が出来る時にできるだけ無理のないように、残存能力を活かせるように支援している。	3食ケータリングで食材が届いて職員が調理している。調理方法も親切丁寧に記載されているので作りやすい。おやつ作りとして、ホットケーキやゼリー、おはぎを提供した。大量のニンジンを使ってスープを作ったら利用者は大いに喜んだ。皮むきや包丁さばきが上手な方には手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者を利用している。食事摂取量の把握を行い、一人一人の体調管理に努めている。体調等に合わせ、刻み食やミキサー食等その方に合わせた食事形態を考えている。食事が摂れない場合は高カロリーの補助食品や本人の好物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って磨き残しがあれば仕上げ磨きを行っている。訪問歯科を利用しており、口腔ケアの指導も職員が受けている。毎日義歯洗浄を行い清潔を保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、個々の排泄状態の把握に努めている。様子観察をしながら失敗のないようにトイレ誘導等の支援をしている。また、状態に応じて紙パンツやパット類を使用しており、随時変更を行っている。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄チェック表を活用して、健康チェック表にまとめて記載している。布パンツで過ごされている方が8名いて、夜間のみPTトイレを使っている方もいる。排泄失敗時には、周りに気づかれないように耳元で優しく「大丈夫、大丈夫、気にしないで」と言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	ヨーグルト、バナナ等の食材を積極的に取り入れている。何種類かの飲み物を用意し、個々に合わせた水分補給の支援をしている。体操等しっかり体を動かして頂き、出来るだけ薬に頼らない生活を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の意向に沿うよう、職員交代等をし入浴介助を行う事がある。入浴拒否の方に曜日を変更したり、担当者を変更したりして色々な工夫で入浴の支援をしている。	入浴は週2回の提供。お風呂は3方向から介助ができる作りとなっている。入浴中に娘さんのことをポロっと話すこともあり、貴重な意見が聞ける。浴槽と脱衣所は冷暖房完備でヒートショックにも対応している。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯の提供もあり、入浴剤はほぼ毎日使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を取り入れたり、心地よく眠りにつけるように日中の活動に配慮している。入居者の体調、生活スタイル等を考慮し、休憩がとれよう支援をしている。入眠前の関わりの工夫をし自然な入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は日付、名前、時間を声に出して自他共に確認を行い、事故防止に努めている。薬局の薬剤師から指導を受け、薬の処方や量に変更があれば申し送り、詳細に記録をして状態観察し、異常があれば医療機関との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や、本人の会話の中から趣味や役割を見つけ、個々に合わせて楽しみながら出来るように工夫している。季節ごとのイベントを行い、季節を感じながら気分転換できるよう努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	県内の感染状況を見ながらドライブ等、感染対策をして、戸外へ出るようにしている。	春には、ふれあいセンターや無動院へ行き、桜を観た。夏には、施設内で七夕会、秋には、敬老会でお弁当を食べた。冬には、かこの専門店、久々の外食ができ、笑顔の様子が窺えた。備中国分寺に出掛けて、サンロード吉備路でタンチョウを観て、気分転換ができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は自らお金を使う機会はないが、家族が本人の財布に大きな額ではないが、少額のお金を所持していた方もおられた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることはないが、家族からの電話があれば相談室にてゆっくりと話ができるように支援をしている。年末には、年賀状が出せるように支援をしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホールには花、作品を飾り、季節感を取り入れた雰囲気作りをしている。トイレの前にカーテンを設置しプライバシーの保護を図っている。入居者の状態に合わせ必要に応じてテーブルやソファの配置換えをし、パーティーなども使用して気分転換をしている。	リビングでは、朝のティータイムをしながらTVを観てゆったりと過ごしていた。午前中のレクリエーションでは、玉入れやラジオ体操をして体を動かし、「津軽海峡冬景色」や「青い山脈」を熱唱していた。毎月季節に応じた飾り付けをして、12月はリースやツリーを象った飾り付けでクリスマスの雰囲気を楽しんでいた。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブルの配置を工夫し、一人で、また、気の合う入居者同士で過ごせるように工夫している。廊下・玄関・テラスに椅子を置き景色や写真を見ながら、入居者同士で寛いでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた筆筒等を置き、本人が安全で使いやすいように配置している。思い出のアルバム等を持ち込み、穏やかに過ごせるように家族に協力を得ている。	ベッド、エアコン、棚が備え付け。カメラが趣味の方は、愛読書の雑誌・ニュートンの銀河系のページを見ていた。居室では、TVを観たり、週刊誌を読んだりして過ごし、お化粧をして身だしなみを整えている方もいる。昔、音楽の先生だった方は、キーボードの弾き語りをすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事、出来ない事を見極め、トイレ・居室前・洗面所等に目印をつけている。また、物の配置も工夫している。廊下・トイレ内・洗面所・浴室等に手すりを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3390400061		
法人名	(株式会社) 桜梅桃里		
事業所名	グループホーム和楽の家 東児		
所在地	岡山県玉野市西田井地2256-1		
自己評価作成日	令和 5 年 12 月 7 日	評価結果市町村受理日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

令和5年5月から「5類感染症」になり少しずつ緩和されてきたので、時候の良い時には散歩をし近所の方と話しをしたり交流している。施設内での行事に力をいれている。節分・ひな祭り会・七夕会・クリスマス会・門松作り・おせち作り等趣向を凝らして催している。職員においては介護スキルを向上させることで入居者に貢献でき、それより自分自身も喜びを見出してもらえよう個々に合った研修を受講することで、人材育成を図っている。現在職員18名、介護福祉士9名、介護支援専門員4名、また職員が入居者一人一人と向き合うことで、入居者から出た日常の”つぶやき”を集めた「つぶやき集」の作成にも力を入れている。健康な生活を送っていただくために食後の口腔ケア施行はもちろんの事、毎週木曜日には訪問歯科診療にも来ていただき口腔内の清潔を保っている。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3390400061-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス
所在地	岡山市北区岩井2丁目2-18
訪問調査日	令和 5 年 12 月 15 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

両ユニットの管理者や副管理者は、理念の「自分らしくを大切に！」を念頭に、利用者の人柄や暮らしを知るために、一人ひとりと会話をする時間を大切にしている。職員と連携を図りながら、人間関係と信頼関係づくりに力を注いでいて、利用者との何気ない会話から趣味や興味を把握している。各ユニットの壁面には、手先が器用な方と一緒に作成した、手作りの貼り絵や毛糸で作った動物の顔の作品、季節を感じられるようにクリスマスにちなんだ作品も数多く掲示されている。「パズルの時間」になると、ペットボトルのキャップで作られた手作りパズルをして楽しんだり、「食器洗いの時間」になると職員と一緒に片付けをしたりして、過ごしている利用者の姿があった。各ユニットの行き来が可能な玄関先には、行事の写真が掲示され、出し物で演じた役をやり切っている姿、職員と笑顔で写っている利用者の姿が印象的だった。外出も少しずつではあるが、出来るようになって総社の備中国分寺で五重塔を眺めたり、外食を楽しむこともできた。職員は利用者一人ひとりの思いに寄り添っているからこそ、利用者には安堵の表情が浮かび、施設全体に笑い声が響き渡っていた。

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホーム全体の目標を掲げて定期的に評価している。自分自身の振り返りができ少しずつではあるが次へ繋げている。	理念は、玄関と事務所に掲示している。基本理念・基本指針、企業理念、介護理念、介護業務理念、GHスローガン、4S(整理・整頓・清潔・清掃)も掲げている。その他にも、1年間のGH内の目標も掲げている。法人の内部研修へ行った際には、理念に触れる機会を設けている。	素晴らしい理念なので、浸透できるように工夫してみたいかがでしょうか。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍のため、現在、地域交流はほとんどなされていない。	町内会に加入していて、回覧板にて情報を得ている。年2回、溝掃除に参加している。近隣の散歩をしている時に、出会った方と挨拶を交わしている。また、地元の馴染みの方と会った際には、昔話に花が咲いた。コロナ以前は、地域の秋祭りや職場体験の受け入れもあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍のため現在は受け入れてないが、小学校の総合学習の参加と、中学校の職場体験学習の受け入れを積極的に行っていた。	/	/
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍のため、事業所内での運営推進会議は開催されていないが、催し物、避難訓練等の活動の情報は記録し、家族へは日常の様子を写真を添えて送っている。	現在は書面開催となっていて、地域包括支援センター、民生委員、愛育委員、家族に書類を郵送している。町内会長へは直接持参している。行事や避難訓練を行った際の報告を行った。コロナも落ち着きつつあるので、今後は対面式で実施する予定である。	様々な角度から意見を聴取できるように工夫してみたいかがでしょうか。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	コロナ禍のため、介護相談員訪問、外部への会議出席は見合わせているが、成年後見人が必要な方に市長申し立てをして相談にのって頂いている。	窓口の基本は両ユニットの管理者で、書類を直接持参することで、face to face の関係が継続されている。直近では、衛生機材の配布の連絡が入り、管理者が直接取りに行った。また、研修案内などの情報はメールで届く。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	年2回身体拘束の研修を行い、3ヶ月に1回定期的に身体拘束委員会を開催して当施設の現状把握をしている。毎月開催しているカンファレンスで身体拘束の定義を踏まえ、入居者一人一人につき、拘束していないか話し合いの中で確認している。	委員会では、身体拘束があるかどうかの確認を行い、家族には身体拘束に関する説明書・経過観察記録にて、同意を得ている。言葉掛けのタイミングや対応についても確認し合っている。外部研修はZOOMで実施して、資料を見ながら学びを深めた。両ユニットの行き来は自由となっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会で虐待になる事はどんなことかを学習している。日頃から、職員間で注意を合えるような関係づくりを目指している。毎月のカンファレンスで虐待を行っていないか虐待の定義を踏まえ、入居者一人一人について確認し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者や職員は日常生活自立支援事業や成年後見制度について勉強会等を通して詳しく学ぶ必要性を感じている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者が契約をし、十分な説明を行い不明な所は説明している。又、契約時に要望書をお渡しし、何かあれば本社へ郵送して頂くようお願いしている。要望あれば、職員間で周知徹底し不安の解消に努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	コロナ禍のため、直接、家族との面談はないが、電話、メール等で意見、要望等を聞いて対処している。	面会はコロナ前の状態に戻っている。直接意見を聞いたり、入居時に渡している要望書を提出して頂いたりしている。月1回、ご家族通信を発行していて、写真を添付しているので施設の様子がわかるとの声を頂き、担当者からのコメントも好評である。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者が毎月のカンファレンス等で職員に運営についての意見をしっかりと聞き、本社に改善を求め、改善につなげている。	月1回の会議にて職員の意見を聴取している。年1回、職務アセスメントを実施して、職員の評価をしている。両ユニット管理者や副管理者は、何でも言いやすい雰囲気作りに努めていて、10年戦士が10名程いるので安心でき体制が整っている。日々の業務中にも意見が飛び交い、明るい職場環境であった。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員に待遇についての意見や要望をしっかりと聞き、本社に改善を求め改善につなげている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	採用時研修、本社研修、キャリア形成訪問指導事業の研修、毎月の勉強会等施設での研修を実施している。又、個々の職員の状態に合わせて外部のオンライン研修を受けさせている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍のため、直接、交流する機会はないが、入居者の情報を交換し共有するように努めている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	本人や家族から聞いたエピソードを基に生活史を理解し、それを踏まえた上で統一した利用者支援を心がけている。尊厳を持った関わりを目指し、個々の利用者の思いを傾聴するよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	丁寧な面接を通しての家族の精神的負担、孤立を軽減できるよう努めている。家族と連携しながら入居者の生活環境を整えている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	面接を通して得た情報を基に、アセスメント後1ヶ月を目途にした暫定プランの作成、入居後再アセスメントをしその時の状況に応じたプランの立案をしている。必要に応じ、他のサービス利用も視野に入れる。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者のこれまでの生活史を把握し、家事、料理等出来る事は職員とともにに行い、役割を持ち生活できるよう配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	毎月、担当者が入居者の様子を記した家族通信と日常の写真を送付している。家族からは「会えないので、元気そうな写真を見て安心しました。」との連絡を頂くこともある。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前のかかりつけ医の受診等、家族の協力を得ている。	面会では、家族や親戚はもちろん、姑さんも来て、仲良く話をしている姿が印象的だった。地元の馴染みの方と会うこともあり、昔話に花を咲かせている。外食へ出掛けた際の帰りには、昔馴染みのお店や自宅付近を通り、昔を思い出していた。リビングの席が馴染みとなり、我が家のようにゆったりと過ごしていた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の相性を考慮し、食事席等、入居者や職員がスムーズなコミュニケーションを取れる工夫をしている。居室で過ごすことの多い方とは一緒にお茶や会話を楽しむ時間を大切にしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後の様子を尋ねたり、必要に応じて家族との支援づくりに努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	グループワーク時や日々の会話の中で現在の生活はどうか、どうしたいか尋ねたり皆さんの思いを聞く。状態が変化すればその都度職員全体で考えている。	入居者に寄り添いながら、聞き取りやすいように、優しく言葉掛けをしている。体調に合わせて、排便コントロールにも気を配っている。理念にもある「自分らしく」を大切にしている、利用者の一人ひとりに合わせた生活ができるように配慮している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活歴、生活史、職歴、趣味等入居に至るまでの経緯を十分に把握し家族とも連絡を密にし、家族で生活していた頃の様子等の情報も得ている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の日課表に添った生活の中で、残存機能を活かし生き生きとした暮らしができていないか把握し変化や問題点があればその都度職員全体で考え現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月個別カンファレンスを行い、課題があれば話し合い改善を目指している。また、家族の意向は、電話メール等でお聞きして把握できるよう努めている。	入居時に暫定プランを立てて、1ヶ月、3ヶ月、6ヶ月毎に更新している。支援経過記録には、短期目標を掲げているので、職員間で情報共有をして、目標に沿った支援に繋げている。また、日中や夜間の様子を細かく記載している。ケアマネジャーは、施設で毎日楽しく過ごして頂きたいと考えていて、寄り添ったプランを作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	その方の日常の様子、職員のケアの実践状況等、細やかな個別記憶を通して情報の共有を図り、介護に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	その時の状況に応じて、家族と電話で何度も話し合い柔軟な対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	入居前から利用しているデイケアへ続けて行かれている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設の協力医、入居前のかかりつけ医での医療が受けられるように医療機関と関係を密に結んでいる。必要に応じ家族とともに同行し、普段の詳しい状態を伝えるようにしている。近況の情報提供書を送付している。	かかりつけ医は入居時に選べるが、元のかかりつけ医を継続している方もいる。内科は週1回、精神科は月1回の往診がある。体が痛いと言う利用者に対して、ドクターは「治っているので大丈夫」と優しく言葉を掛けている。他科へは、基本家族が連れて行くが、状況により職員が対応する場合もある。週1回、訪問歯科も来られる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回訪問看護を利用している。日常的なことは連絡ノートに記入して一人一人の状態把握をしている。また、入居者の状態変化があった際には電話で相談して早期に受診して頂く等、適切な医療につなげている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	医師と話をする機会を持ち、施設内での対応可能な段階で早く退院できるようアプローチしている。入院時には本人に関する情報提供している。家族と回復状況等情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族の意向、本人にとってどうあったら良いのか、施設が対応し得る最大の支援方法を踏まえて方針を職員で話し合っている。外部や内部での研修、講演会等で意識向上を図っている。家族の協力も得ながら医師、職員が連携をとり安心に納得した最期を迎えられるように随時意思確認を行いながら取り組んでいきたいと思っている。	看取りは実施しているが、ここ数年はなかった。コロナ禍での看取りでは、対面や人数制限は設けなかった。入居時に「看取りに関する同意書」にて説明して、サインを頂いている。重度化した際には、再度聞き取りの場を設けている。デスクンファレンスでは、職員から看取りに関するアンケートを実施して、次に繋げている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内にAEDも設置し、入居者が急変した場合の緊急時対応についてマニュアルを作成し、職員が落ち着いて対応できるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防本部の協力を得て、火災を想定した避難訓練、消火器を使つての消火訓練も実施している。津波対策として食料品の備蓄も準備している。	年2回昼夜想定で火災訓練を実施し、大雨の避難対策もできた。連絡網とハザードマップは事務所に掲示している。備蓄は、水や食料品を3日分、事務所に保管している。賞味期限間近の物は利用者と一緒に食して、フードロスをなくしている。BCP対策も現在進行中である。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	色々な場面でプライバシーを尊重したケアを心掛けている。入居者を人生の先輩として意識しながら声掛けを行っている。居室の入り口には、のれんをかけたり、トイレ前にカーテンをかける等プライバシーも保護している。居室に入る際は声掛けをし、本人に許可を取っている。	呼称は苗字に「さん」付けだが、家族の許可を得た上で、別の呼び方で呼ぶ場合もある。利用者は「人生の先輩」なので、尊敬の気持ちを持って日々接している。お風呂やトイレなど、肌が露出する場面では、カーテンを敷いてプライバシーに配慮している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎朝、コーヒータイムで入居者方の間に職員が入り、グループワークを行っている。グループワーク等時に、自分の誕生会のバースデーケーキの種類を選んでもらう等(主役体験)入居者の意見、希望を聞き入れている。また、更衣の際などは好みの物を選んでもらえるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れはあるが、毎日の生活を自分のペースで行えるように相談しながら行っている。調理、散歩等望まれることで、職員と共に楽しむように個別対応をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣時は好みの物を共に用意している。訪問理容を利用しているが、行きつけの店がある方は、その店を利用できるように連携を取っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理、盛り付け、配膳、後片付け等入居者と共に行い、食事は、職員も同じ物を食べながらテーブルを囲み明るい雰囲気での食事を心掛けている。以前は、家庭菜園で採れた新鮮な野菜を取り入れ、季節を感じながら食欲増強に努めている。	3食ケータリングで食材が届いて職員が調理している。調理方法も親切丁寧に記載されているので作りやすい。おやつ作りとして、ホットケーキやゼリー、おはぎを提供した。大量のニンジンを使ってスープを作ったら利用者は大いに喜んだ。皮むきや包丁さばきが上手な方には手伝って頂いている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	メニューはバランスを考えて職員が考えている。水分、食事摂取量の把握を行い、一人一人の体調管理に努めている。体調等に合わせ、刻み食やミキサー食等その方に合わせた食事形態を考えている。食事が摂れない場合は高カロリー補助食品や本人の好む物を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行って磨き残しがあれば仕上げ磨きを行っている。訪問歯科を利用しており、口腔ケア方法の指導も職員が受けている。毎週1回決まった曜日に義歯洗浄を行い、清潔を保てるようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を使い、個々の排泄状態の把握に努めている。様子観察をしながら失敗のないようにトイレ誘導等の支援をしている。また、状態に応じて紙パンツやパット類を使用しており、随時変更を行っている。	トイレは各ユニット3ヶ所ある。排泄チェック表を活用して、健康チェック表にまとめて記載している。布パンツで過ごされている方が8名いて、夜間のみPTトイレを使っている方もいる。排泄失敗時には、周りに気づかれないように耳元で優しく「大丈夫、大丈夫、気にしないで」と言葉掛けをしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	甘酒、ヨーグルト、ヤクルト、バナナ等の食材を積極的に取り入れている。何種類かの飲み物を用意し、個々に合わせた水分補給の支援をしている。体操等しっかり体を動かして頂き、出来るだけ薬に頼らない生活を心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者の意向に添うよう、職員交代等をし入浴介助を行うことがある。以前は、仲の良い入居者同士入浴している場合もある。入浴拒否の方には色々な工夫で入浴の支援をしている。	入浴は週2回の提供。お風呂は3方向から介助ができる作りとなっている。入浴中に娘さんのことをポロっと話すこともあり、貴重な意見が聞ける。浴槽と脱衣所は冷暖房完備でヒートショックにも対応している。季節湯として、ゆず湯や菖蒲湯の提供もあり、入浴剤はほぼ毎日使用している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	午睡を取り入れたり、心地よく眠りにつけるように日中の活動に配慮している。入居者の体調、生活スタイル等を考慮し、休息がとれるよう支援している。入眠前の関わりの工夫をし自然な入眠を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬時は日付、名前、時間を声に出して自他ともに確認を行い、事故防止に努めている。薬局の薬剤師から指導を受け、薬の処方や量に変更があれば申し送り、詳細に記録をして状態観察し、異常あれば医療機関との連携も図っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	家族からの情報や、本人との会話の中から趣味や役割を見つけ、個々に合わせて楽しみながらできるように工夫している。季節毎のイベントを行い、季節感を感じながら気分転換できるように努めている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍のため、外出はできないが天気の良い日には入居者と共にホーム周りを散歩したり、ベランダで日光浴等の支援をして出来るだけ戸外へ出るようにしている。	春には、ふれあいセンターや無動院へ行き、桜を観た。夏には、施設内で七夕会、秋には、敬老会でお弁当を食べた。冬には、かこの専門店、久々の外食ができ、笑顔の様子が窺えた。備中国分寺に出掛けて、サンロード吉備路でタンチョウを観て、気分転換ができた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者は自らお金を使う機会はないが、家族が本人の財布に大きな額ではないが、少額のお金を所持していた方もおられた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話をかけることはないが、家族から電話がかかると相談室にてゆっくりと話ができるように支援している。年末には、年賀状が出せるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホールには花・作品を飾り、季節感を取り入れた雰囲気作りをしている。1ユニット毎に1ヶ所のトイレにドアの前にカーテンを設置し、プライバシー保護を図っている。入居者の状態に合わせ、必要時はテーブルやソファの配置換えをし、パーテーションなども使用して気分転換をしている。	リビングでは、朝のティータイムをしながらTVを観てゆったりと過ごしていた。午前中のレクリエーションでは、玉入れやラジオ体操をして体を動かし、「津軽海峡冬景色」や「青い山脈」を熱唱していた。毎月季節に応じた飾り付けをして、12月はリースやツリーを象った飾り付けでクリスマスの雰囲気を楽しんでいった。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファ・テーブルの配置を工夫し、一人で、また、気の合う入居者同士で過ごせるように工夫している。廊下・玄関、テラスに椅子を置き、景色や写真を見ながら、入居者同士で寛いでおられる。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使用していた筆筒等を置き、本人が安全で使いやすいように配置している。思い出の写真等を持ち込み、穏やかに過ごせるように家族に協力を得ている。プライバシー保護の為、居室の入り口にはのれんをしている。	ベッド、エアコン、棚が備え付け。カメラが趣味の方は、愛読書の雑誌・ニュートンの銀河系のページを見ていた。居室では、TVを観たり、週刊誌を読んだりして過ごし、お化粧をして身だしなみを整えている方もいる。昔、音楽の先生だった方は、キーボードの弾き語りをすることもある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の出来る事、出来ない事を見極め、トイレ・居室前・洗面所等に目印をつけている。また、物の配置も工夫している。廊下・トイレ内・洗面所・浴室等に手すりを設置している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある			○	3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)		1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
		○	4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)		1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				